

著明ナル兔唇遺傳ノ一例

Ein Fall von auffälliger Erblichkeit der Hasenscharte.

Von Dr. Yoshio Iwama.

Aus dem anatomischen Institut der Kaiserlichen Universität zu Kyoto.

(Leiter: Professor Dr. S. Funakoka)

京都帝國大學解剖學教室(丹岡教授指導)

大學院學生 醫學士 岩 間 義 夫

人類界ニ於テモ、或ル種ノ形質ノ遺傳ニ際シ、動物及ビ植物界ニ於ケルト同様ノ法則ノ適用シ得ルコトハ、疑フ餘地ガナイ。然シナガラ、他ノ動物ヤ植物ト違ツテ人類デハ、ソノ研究ノ結果ニ對シテモ、徹底的ノ斷案ガ下シ得ナイ場合ガ多イノミナラズ、斷案ノ價值ヲ輕減スル様ナ事情ガ付キ纏フコトガ多イノデアル。即チ先ヅ斷案ノ基礎トナル所ノ研究材料ニ就テ考ヘテ見ルト、人類ニ於テハ、實際的遺傳學ニ於テ最も重要ナル人爲的交配ガ、絶對ニ不可能デ、材料トシテハ、從ツテ、自然ニ偶發スル零細ナル例數ヲ集メルヨリ外ニ全ク途ガナイ。加之人類デハ、實驗遺傳學ノ研究デ材料トナル動物ト違ツテ、ソノ一代ガ甚ダ長ク、然モソノ長イ一代ニ産ム子供ノ數ガ多クナイ。且ツ又、人類デハ、同ジ祖先ノ子孫デ、兄弟姉妹ハ勿論從兄弟姉妹間又ハ血縁ノ近イ者同志間ノ結婚ハ甚ダ稀ナコトデアリ、又之ヲ續ケルコトハ不可能デアル、ソレデ形質分離ノ模様ヲ見ルコトハ困難デアアル。殊ニ研究ノ目標トナツテ居ル形質ガ、劣性デアアル様ナ場合ニハ、遺傳質ノ分離ヲ見ル場合ガ、一層稀有ノコトニナル。上述ノ如ク、材料ガ乏シク、其ノ蒐集モ亦極メテ困難デアアルニモカ、ワラズ、何レノ他ノ學科デモ同ジデアル様ニ、直接人類ニ關係スルコトガ、實際上ニハ最も重要デアリ、且ツ普遍的ニ興味ガ集中サレルノデ、醫學者ニモ生理學者ニモ、又經世家間ニモ、此方面ノ研究ニ努力シ、其等ノ結果ニ注目シ、又其ヲ援助ス

ル人達ガ少ナカラズアツテ、今日デハ、資料ハ少ナカラズ集ツテ居ルノデアル。其等ノ材料ハ、何レモ苦心ノ結果トシテ、困難ノウチニ集メラレタ、貴重ナモノデアルガ、右ニ述ベタ様ナ困難ナ事情ガ每常伴ヘル關係上、實驗遺傳學ノ記錄ト違ツテ、缺陷ノ多イコトハ止ムヲ得ナイコトデ、二三代前ノモノニナルト、舊系圖上ノ調べデアルカラ、明確ヲ缺クモノガ多イノハ、致シ方ガナイノデアル。從ツテ上述ノ如クニ、斷案ノ價值ノ高下ニ一考ヲ要スル様ナ事情モ伴ツテ來テ居ル。其ハ材料ノ性質ガ、右ノ如キモノデアルカラ、材料ヲ蒐集スル人ニ、豫メ、一定ノ信念ガアツテ、所謂色眼鏡ヲ掛ケタ態度デ見レバ、懷疑的ノ態度ノ人ノ目ニハ疑ハシイモノモ、其ノ信念ヲ確メル例デアルヨウニ見ヘルトイフコトガアルカラデアル。今日集メタル多クノ資料ニハ、此點ニ細心ノ注意ヲ拂ツタモノモ多イガ、右ノ様ナ缺點ガアルトイフ批難ノアルモノモ少クナイ。中ニハ自身ノ所信ヲ立證スルタメニ、無理ヲ解釋ヲシタト認メラレテ居ル様ナモノモアルノデアル。

「メンデル」ノ遺傳形質分離ノ法則ガ、ドノ位人類ニ當嵌マルカトイフコトニ就テハ、或ル學者ハ之ニ對シテ極メテ懷疑的ナ態度ヲトルニ反シ、他ノ學者ハ全ク之ニ反スル態度ヲ持ツ人モアツテ、一定シテ居ナイノデアル。然シ、現今多數ノ研究者ノ間ニ、先祖ヨリ子孫ニ血統ヲツタツテ遺傳スルコトノ疑ナイモノトシテ、廣ク認メラレテ居ル形質ハ、其ノ數ガ隨分アルガ、其等ノ内ニハ、多數ノ遺傳因子ガ關係スルモノラシク、實驗遺傳學デ取り扱フ一ツノ形質デハナク、形質群トモ稱スベキモノデ、其儘デ分離律ガ適合スルカ否カラ、討議スベキ限リデナイモノモ澤山ニアル。ガ然シ又、花ノ色ヤ動物ノ體色ナド、同ジ様ニ、簡單ニ取扱ハレテ、確ニ、「メンデル」則ガ當嵌マルコトガ、普ネク信ゼラレテ居ル形質モ若干アル。

人類ノ諸形質ノ遺傳ノ問題中デ重要ナモノト、興味アルモノトシテハ、身體ノ形態上ノ諸形質ト、其ノ畸形、疾病ノ素質、精神病、神經器官ノ缺陷ノ現象、才能ノ遺傳、天才及ビ優良家系統等デアル。

種々ノ器官ノ畸形、發育異常ヤ病變デ、遺傳性ノモノデアルトサレテ居ルモノハ頗ル多イ。其等ノ内ニハ眞偽ノ程ノ明

ニサレル迄研究ノ進ンデ居ナイモノモ多イガ、充分ニ研究ノ行キ届イタモノモアリ、「メンデル」式ニ形質ノ分離ヲ見ルコトガ明デアルトサレテ居ルモノモアル。

所ガ、屢々吾人ノ相遇スルトコロノ畸形デアル兔唇 (Hasen-schlinge, hare lip) 卽チ「三ツ口」ニ就テハ、諸説紛々、家系表モ少ナカラズ記載サレテ居ルガ、遺傳性ノモノデアルカ否ヤニ就テハ、未ダ斷案ガ下サレテ居ナイ。

私ハ偶々、自分ノ熟知シテ居ル一農家デ、シカモ、又從兄妹同志ノ結婚ヲシタ夫婦ノ間ニ出來タ八人ノ子女ノ内、二人迄兔唇ヲ持ツテ産マレ、其他同族中ニ於テモ、屢々同様ノ畸形兒ヲ出產シタトカデ、頑是ナイソノ同胞迄ガ、ソノ母親ノ懷胎スル度毎ニ、喜ビト心配ノ二ツノ心ヲ同時ニ持ツテ、ソノ出產ヲ待ツトノ事ヲ知ツタノデ、私ハ、兔唇ト遺傳トノ間ニ、如何ナル關係ガアルカトイフコトニ興味ヲ覺ヘ、一方デハ、彼等一族ノ名譽ヲ尊重シテ、之ヲ毀損シナイ範圍デ、他方ニハ、ソノ結果ガ資料トシテノ價值ヲ寸毫モ減損シナイ様、出來ル丈手ヲ盡シテ、細心ニ調査シテ見タトコロガ、ソノ結果、意外ニモ遺傳關係ガ濃厚デアルコトガ知レタノデアル。尤モ、先ニ述ベタ様ニ、兔唇ト遺傳ニ關スル先人ノ報告ハ、ソノ數ニ於テハ、決シテ少數デナク、就中、Guthrie Family, Passavant, Denarqway, Tren. 諸氏等ノ、ソノ價值ノ極メテ大ナルモノモアリマスガ、ソノ世代ヲ見レバ何レモ、永イモノデモ四代ヲ出デズ、ソノ濃度モ亦何レモ餘リ著明デナイ。所ガ私ノ例デハ、ソノ世代ハ五代ノ永キニ及ビ、總人員ハ九十六名ノ多キヲ數ヘ、ソノ濃度モ亦頗ル濃厚デ、加フルニ、二世二代ニ亘ツテ近親結婚ヲ行ツテ居ルノデ、從ツテ起ル所ノ分離ノ模様ヲモ見得ルナド、恐ラク從前知ラレテ居ル所ノ遺傳系譜ノ内デ、一番大キイ系譜ノ一ツデアルト思フ。シカノミナラズ、其ノ結果ニ就テモ亦、ソノ問題ニ關係ノアルトコロノ、色々ノ事項ヲ調ラベルニ當ツテ、最モ都合ノ關係ニ在ル私ノ家庭、ノ一人デアル私ガ、何等ノ先入的ノ信念ヲ持タズ、所謂色眼鏡デ見ルコトヲ絶對ニ避ケテ、細心ニ然モ忠實ニ調査シ得タモノデアリマスカラ、兎角、缺陷ト不明確ナ點ノ多イ、コノ種ノ報告トシテハ、極メテ正確ニ近イモノト信ズルコトガ出來ルノデ、本例證ニ對スル遺傳ノ法則ノ適否批判ハ今暫ク之ヲヲキ、只ソノ事實ヲ尊シトシテ之ヲ記述シ、以テ斯學研究者ノ參考ト資料ノ一ツトシテ提供セン

(II. 6) ハ又尋常女子 (II. 5) ト結婚シテ、何レモ尋常テアル四女 (長女 (III. 12)、次女 (III. 13)、三女 (III. 14)、四女 (III. 15)) ヲ生ンデ居ル。

(II. 8) ハ又尋常女子 (II. 7) トノ間ニ、尋常男子 (II. 8) ヲ舉ゲテ居ルガ、ソレ以外ニ子女ガ有ツタカ否カハ不明デアル。

(III. 2) ハ尋常女子 (III. 1) ト結婚シテ四男三女 (長女 (IV. 2)、次女 (IV. 4)、長男 (IV. 5)、次男 (IV. 7)、三男 (IV. 9)、三女 (IV. 11)、四男 (IV. 13)) ヲ生ンダ、ガ何レモ異常ガナカツタ。

(III. 4) 及 3 (III. 6) ハ何ノモ尋常男子 (III. 3) 及 ビ (III. 5) ト結婚シタガ、子女ノ有無ハ明デナイ。

(III. 8) ハ從兄妹ニ當ル (III. 14) ト近親結婚ヲ行ツテ、其ノ間ニ五男二女 (長男 (IV. 19)、次男 (IV. 21)、三男 (IV. 23)、四男 (IV. 24)、長女 (IV. 25)、次女 (IV. 26)、五男 (IV. 27)) ヲ舉ゲテ居ル、ガ何レモ尋常デ畸形ト認ムベキモノヲ持ツテ居ラス。シカシ、(IV. 24) ハ二十三歳デ戰死シ。(IV. 25) ハ七歳デ、(IV. 27) ハ廿五歳デ病死シ、從ツテ子孫ヲ殘シテ居ラス。

(IV. 2) ハ尋常男子 (IV. 1) ト結婚シテ、尋常ナ一男子 (V. 2) ヲ生ンデ居ルガ、其ノ他ニ同胞ノ有無ハ確デナイ。

(IV. 5) ハ所謂又從兄妹ニ當ルトコロノ (IV. 26) ト結婚シテ、五男三女 (長女 (V. 4)、長男 (V. 5)、次女 (V. 6)、次男 (V. 7)、三男 (V. 8)、四男 (V. 9)、三女 (V. 10)、五男 (V. 11)) ヲ儲ケテ居リ、ソノ内 (V. 4)、(V. 7)、(V. 8) ト (V. 11) ハ尋常デアルガ、(V. 5) ハ幼時カラ七、八歳ニ至ル迄、殆ンド米食ヲ採ラズ、豆類、主トシテ大豆ヲ常食トシテ居タ、又智識情操ノ發育ハ尋常人ト異ツテ居ナイガ、身體ノ發育ガ非常ニ不良デ、十八歳ノ今日ニ於テモ猶ホ、十歳前後ノ子供ノ様デアリ、之ニ反シテ、上述ノ如クニ情智ガ寧ロ常人以上ニ發達シテ居ルノデ、ソノ言行ト態度トガ頗ル滑稽ニ不調和デ、常ニ周圍ノ人々ヲ苦笑サセル材料トナツテ居ル。

(V. 9) モ亦 (V. 5) ト同ジク頭蓋骨縫合ノ閉鎖ガ非常ニ後レテ、所謂「鉢合ハズ」ノ畸形ヲ呈シテ居ル外ニ、頭蓋ガ著シク大キク、眼球モ亦異常ニ大キク且ツ突出シテ居テ、兎ニ角一見シタバケデモ尋常デナイガ、知情ノ發育ハ異常ヲ認メ得ナ

イ。(V.6)ハ生後十日デ死亡シタノデ、不確デハアルガ、兔唇患者デアッタトイフ世評デアル。(V.8)ハ普通男子デアッタガ生後三年二ヶ月デ天死シタ。(V.10)ハ第三度ノ兔唇ヲ持ツテ生マレタノデ、哺乳不足ノ爲メ生後二十四日デ死亡シタ。

(IV.7)ハ普通女子(IV.6)ト結婚シテソノ間ニ、一男二女(長男(V.12)、次男(V.13)、長女(V.14)、次女(V.15)、三女(V.16))ヲ儲ケテ居ルガ、(V.14)ヲ除ク他ノ同胞ハ皆普通人デアル。(V.14)ハ生後三十六日デ死亡シタノデ、畸形ノ有無ハ確デハナイガ、コレモ亦、兔唇患者デアッタトノ風評デアル。

(IV.9)ハ尋常女子(IV.8)ト結婚シテ、一男一女(長女(V.17)、長男(V.18)、次男(V.19))ヲ産ンデ居ルガ、畸形ノ有無ハ不明デアル。

(IV.13)ハ尋常女子(IV.12)ト結婚シテ、一男一女(長男(V.21)、次男(V.22)、長女(V.23)、次女(V.24))ヲ舉ゲタ。ソノ内ノ二人、(V.22)及コ(V.24)ハ普通兒ト産マレタガ、(V.21)ハ生後四十四日デ死亡シ、同ジク兔唇ノ疑ガ濃厚デアル。(V.23)ハ又生後五ヶ月デ死亡シ、兔唇ノ有無ハ不明デアル。

(IV.17)ハ兔唇ヲ持ツテ居タ、ガソノ度ハ明デナイ。

(IV.19)ハ尋常女子(IV.18)ト結婚シテ、一男三女(長女(V.25)、次女(V.26)、三女(V.27)、長男(V.28)、次男(V.29))ヲ生ンデ居リ、(V.28)ノ兔唇者ヲ除イテ他ハ皆普通ノ子女デアル。

(IV.21)ハ普通女子(IV.20)ト結婚シ、六男五女(長男(V.30)、長女(V.31)、次女(V.32)、一男(V.33)、一男(V.34)、四男(V.35)、一女(V.36)、五男(V.37)、六男(V.38)、四女(V.39)、五女(V.40))ヲ儲ケタ。ソシテ、ソノ内ノ(V.32)ガ兔唇ヲ持チ、(V.39)ガ生後六十七日デ死亡シテ、兔唇ノ疑ガ濃厚デアル以外ハ、總テノ他ノ同胞ニ於テ畸形ノ有無ハ不明デアル。但シ(V.34)ハ生後三年デ天死シタガ、死因モ不明デアル。

(IV.23)ハ尋常女子(IV.22)ト結婚シテ、二女(長女(V.41)、次女(V.42))ヲ産ンデ居ルガ畸形ノ有無ハ不明デアル。

以上五代九十六名ノ家族ニ於テ、十名ノ兔唇患者ヲ出シテ居ル。今血族關係ヲ調ラベテミルト。

一、直接兔唇ノ親カラ兔唇ノ子ガ生レテ居ルノハ一回モナイ。然シ一代ヲ距テ、孫ニ現ラハレテ居ルノガ三回。
二、近親結婚

第一回ノ場合(III. 8, III. 14) 零

第二回(從々兄弟)(IV. 5, IV. 26) 一

三、男女ノ別

男

四

女

六

本例ノ記錄ハ之ヲ京都帝國大學醫學部解剖學教室ニ保存シテ、後日再調査ノ機ヲマツ。蓋シ著者ハ嘗テ獨乙ニ於テ、ワイル教授父子ニヨリテ爲サレタ尿崩症ヤ、佛國ニ於ケルネツツルシヅ氏ノ夜盲症例ノ様ニ、數人ノ學者ガ順次ニ、三年モカ、ツテ調ラベアゲタ彼ノ有名ナ例ニナラツテ、後日ノ研究家ノ調査ノ手掛カリニナルコトヲ希望スル。

稿ヲ終ルニ臨ミ、舟岡教授ニ對シテ、ソノ懇篤ナル御指導ト御校閲ノ勞ヲ感謝シマス。

世ナル引用文獻

1) *Treasury of human inheritance*, Vol. I. London, 1912.